

実用新案登録願

昭和 53 年 10 月 12 日

特許庁長官 熊 谷 善 二 殿

1. 考案の名称

ピン 容 器

2. 考 案 者

住 所 大阪府松原市天美北 3 丁目 43 - 13
氏 名 渡 辺 正 敏

3. 実用新案登録出願人

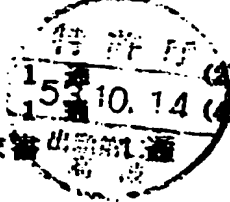
住 所 大阪市住吉区南住吉町 1 丁目 85 の 6
名 称 株式会社 アサヒ ソウ ギョウ
代表者 渡 辺 正 敏

4. 代 理 人

住 所 〒550 大阪市西区西本町 1 丁目 10 番 3 号 新松岡ビル
氏 名 (6782) 弁理士 小 谷 悦 司
電話 06 (541) 2281 (538) 0071番

5. 添付書類の目録

(1) 明 細 書 1 通
(2) 図 面 1 通
(3) 願書副本 1 通
(4) 委任状 1 通
(5) 出願審査請求書 1 通



53 140562

付-56232
方式審査 (丸)

明 細 書

1. 考案の名称

ビン容器

2. 実用新案登録請求の範囲

1. プラスチック製ビン本体の口部に可撓性を有する筒状体を一体に連通連設すると共に、該ビン本体の表面に前記筒状体の先端開口部を閉塞し得る栓体を一体に突設してなることを特徴とするビン容器。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、醤油、ソース等の液体調味料を入れるためのたれビンあるいはミシンや自転車その他機械類の注油器として用いられるビン容器の改良に関するものである。

この種のビン容器は、一般にプラスチックによりブロー成形されたビン本体の口部に、プラスチックにより射出成形されたキャップを螺着して蓋をするように構成されているのが通例である。この場合、ビン本体とキャップとを互いに独立してしかも別の成形方法で成形しなければならない、製

作が面倒でコストが^等高くつく。しかも、このピン容器に上記調味料を注入および注出する際、いちいちキャップをねじ方向にまわして着脱しなければならず、その着脱操作が非常に面倒であり、キャップを紛失するおそれもある。

本考案は、上記従来の問題点を解決するために提案したもので、その特徴とするところは、プラスチック製ピン本体の口部に可撓性を有する筒状体を一体に連通連設すると共に、該ピン本体の表面に前記筒状体の先端開口部を閉塞し得る栓体を一体に突設してなる点にある。

以下、本考案の実施例を図によって説明する。

1 はピン本体で、たとえば高圧ポリエチレンその他の軟質プラスチックによりブロー成形し、その成形時に、口部を筒状に長く延出させて彎曲可能な筒状体 2 を一体に連通連設すると共に、肩部に棒状の栓体 3 を一体に突設する。この場合、筒状体 2 の少なくとも先端部の内径を栓体 3 の外径と同等もしくはそれに近い大きさに形成しておく。これによって所望のピン容器を構成する。

上記の如く構成したビン容器を用いるときは、口部の筒状体 2 を真直ぐ伸ばした状態で、該筒状体 2 の先端開口部からビン本体 1 内に液体調味料あるいは油等の所望の液体を注入した後、該筒状体 2 を U 字形に曲げてその先端開口部を栓体 3 に外嵌させて封栓する。然る後、内部の液体を注出するときは、前記封栓時とは逆に筒状体 2 の先端開口部を栓体 3 より外し、該筒状体 2 を真直ぐ伸ばしてスポイト式に注出すればよい。

このように、筒状体 2 を曲げたり伸ばしたりしてその先端開口部を栓体 3 に外嵌または離脱させることによって、頗る簡単に開栓ならびに封栓できる。なお、第 2 図に示すように、筒状体 2 の中間部 2 a を蛇腹状に形成すれば、前記開栓ならびに封栓を一層容易にかつスムーズに行なうことができる。

また、栓体 3 の表面に 1 乃至数個の突起 3 a を設け、筒状体 2 の先端部内面に係合用凹部 2 b を設けて、両者 3 a と 2 b が弾性的に係合し得るように構成すれば、封栓時のシール性を高め得ると

共に、不測に開栓することを防止でき、漏れを確実に防止できる。

また、上記ピン本体1と筒状体2および栓体3の各形状、大きさは所望に応じて任意に決定し得るもので、たとえばピン本体1を象の胴体を象り、筒状体2を同じく鼻を象り、栓体3を同じく牙を象り、鼻状の筒状体2の先端を牙状の栓体3に外嵌させて封栓できるように構成すれば、非常にユニークなピン容器が得られる。

以上説明した如く、本考案によれば、栓体をピン本体と一体に成形してあるので、フロー成形等により簡単に成形でき、大巾なコストダウンが可能である。また、ねじ式に比べて開栓ならびに封栓が容易であり、かつ、栓体を紛失するおそれがなく、非常に簡便に使用できる等の効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の実施例を示す縦断面図、第2図および第3図はそれぞれ別の実施例を示す一部を断面した側面図である。

1 … ピン 本 体、 2 … 筒 状 体、 3 … 栓 体。

実用新案登録出願人

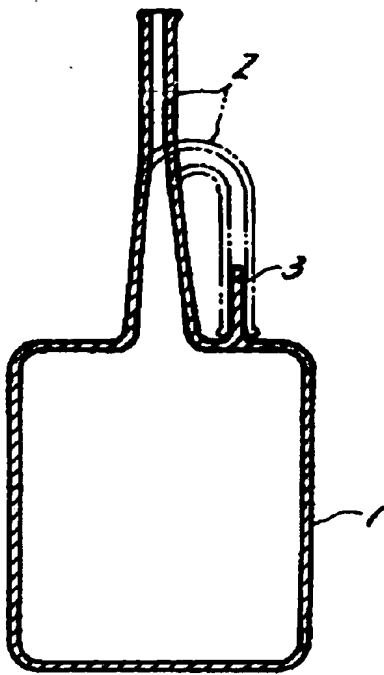
株式会社 旭 創 業

代理人 弁 理 士

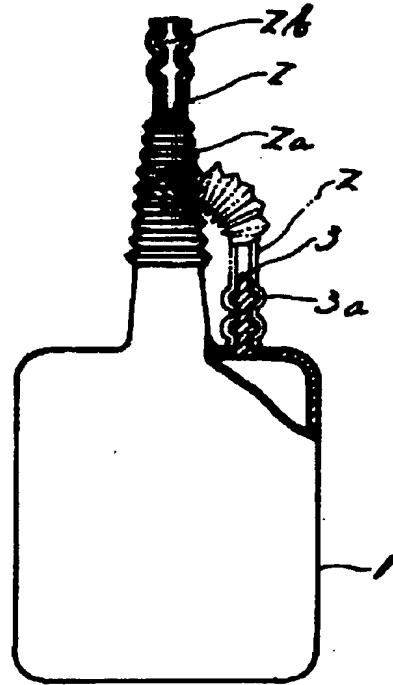
小 谷 悦 司



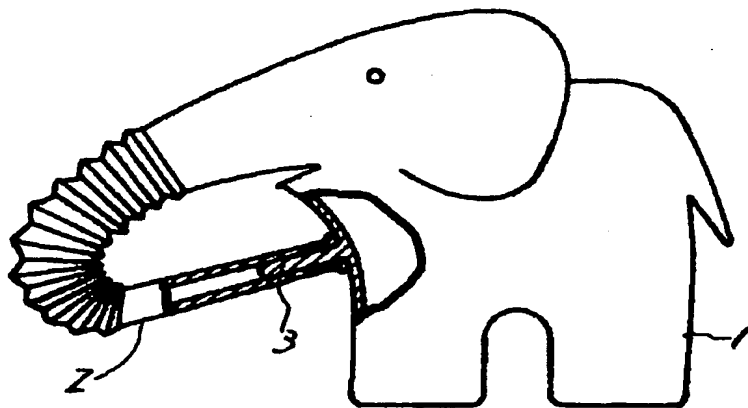
第 1 図



第 2 図



第 3 図



56232

代理人 井堀士 小谷悦司

